

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 22年 1 月
(第1 ~ 4週)

発行年月日：平成22年(2010年) 2月26日
発行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 22年		平成 21年 ^{*1}		感染症 類型	疾 病 名	平成 22年		平成 21年 ^{*1}	
		1月	1～12月	1月	1～12月			1月	1～12月	1月	1～12月
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	1	0	129
	痘そう	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	3
	南米出血熱	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0
	ベスト	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0		ブルセラ症	0	0	0	2
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	五類	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0
	結核	18	1,345	256	26,932		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0		マラリア	0	6	0	56
三類	コレラ	0	1	1	16		野兔病	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	16	0	180		ライム病	0	2	0	9
	腸管出血性大腸菌感染症	0	88	27	3,886		リッサウイルス感染症	0	0	0	0
	腸チフス	0	1	0	29		リフトバレー熱	0	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	27		類鼻疽	0	1	0	0
四類	E型肝炎	0	2	1	56		レジオネラ症	0	41	8	712
	ウエストナイル熱	0	0	0	0		レプトスピラ症	0	0	0	16
	A型肝炎	0	6	0	115		ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0
	エキノコックス症	0	1	0	26		アメーバ赤痢	1	60	10	783
	黄熱	0	0	0	0		ウイルス性肝炎	0	4	3	220
	オウム病	0	0	0	21		急性脳炎	0	26	8	526
	オムスク出血熱	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	1	0	17
	回帰熱	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	0	7	2	141
	キャサナル森林病	0	0	0	0		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	0	13	2	105
	Q熱	0	0	0	2		後天性免疫不全症候群	0	66	9	1,449
	狂犬病	0	0	0	0		ジアルジア症	0	3	0	73
	コクシジオイデス症	0	0	0	2		髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	10
	サル痘	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	2
	腎症候性出血熱	0	0	0	0		梅毒	0	37	3	692
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0		破傷風	0	4	3	113
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	3	0	116
	つつが虫病	0	18	0	465		風しん	0	6	2	148
	デング熱	0	3	0	93		麻疹	0	28	7	739
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0		新型インフルエンザ(H1N1) ^(*)	-	-	138	12,639
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0						

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*) : 集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日、- : 未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要 (1月)

< 結核 > 18名

性別: 男性 13名、 女性 5名
 類型: 患者 14名
 無症状病原体保有者 4名
 病型: 肺結核 12名
 その他の結核 6名

< アメーバ赤痢 > 男性 52歳

推定感染経路は不明で、推定感染地
 域は日本国内です。また、病型は腸管
 アメーバ症です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に52カ所の定点から総数52人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

1月の概要

<インフルエンザ>

第1～4週(1/4～1/31)の定点当たり患者数は、毎週、前週より大幅に減少し、第4週の定点当たり患者数は4.87となりました。昨年の第43週(10/19～10/25)に発令されたインフルエンザ警報は、第3週(1/18～1/24)に、13週ぶりに解除されました。また、第2週(1/11～1/17)に受け付けた咽頭ぬぐい液から、今冬初めての「B型インフルエンザウイルス」が検出されました。

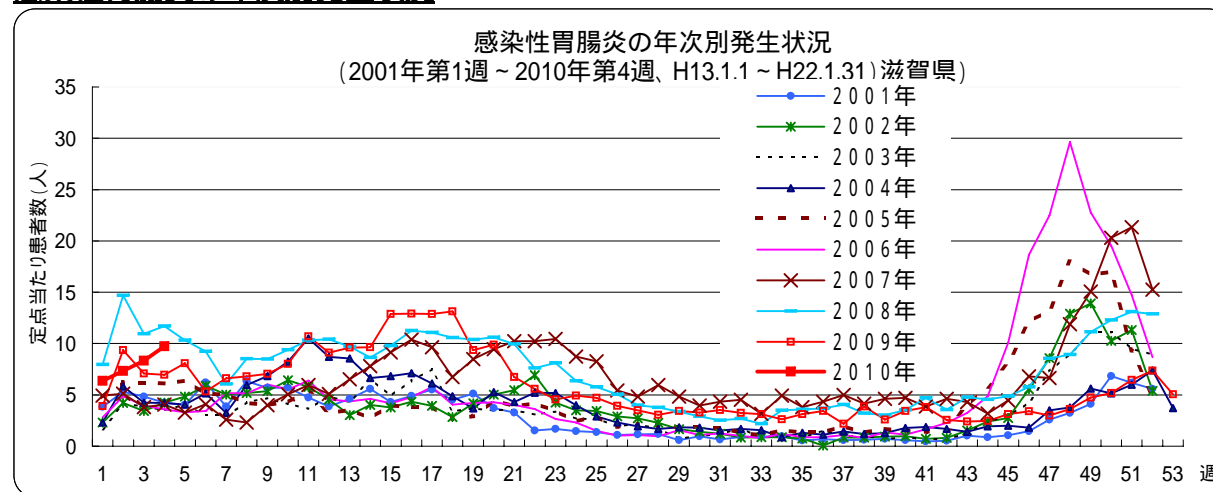
<小児科定点疾患>

先月より増加した疾患は、RSウイルス感染症、A群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎等で、減少した疾患は、水痘、手足口病等です(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。特に、RSウイルス感染症は先月に引き続き急増し、第3週以降は、東近江で急増していました。また、感染性胃腸炎も先月よりさらに増加し、昨年同時期よりかなり多くなり、過去10年間では2008年に次いで2番目に多くなっていました。保健所管内別では、長浜および高島で増加傾向を示していました。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月とほぼ横ばいで、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。また、基幹定点疾患では、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎は東近江から報告がありました。マイコプラズマ肺炎は、大津市および甲賀からの報告がやや多くなっていました。細菌性髄膜炎の報告は、ありませんでした。

感染性胃腸炎の年次別発生状況



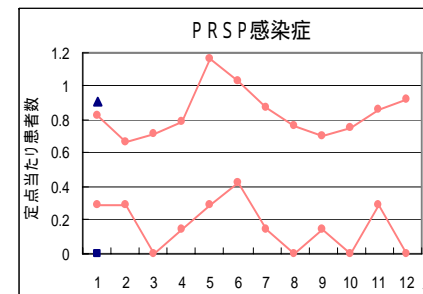
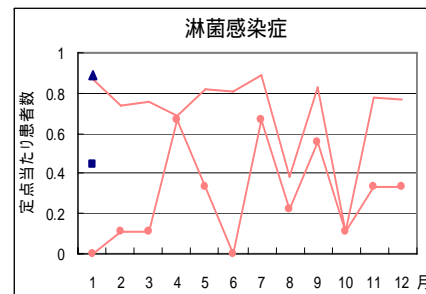
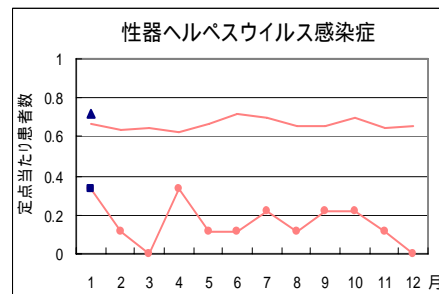
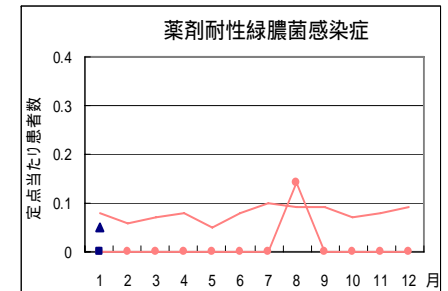
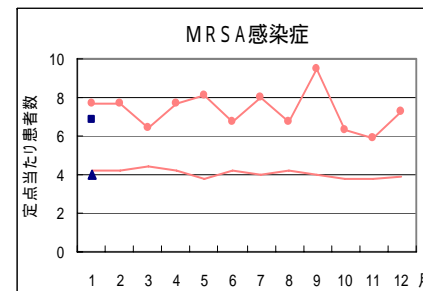
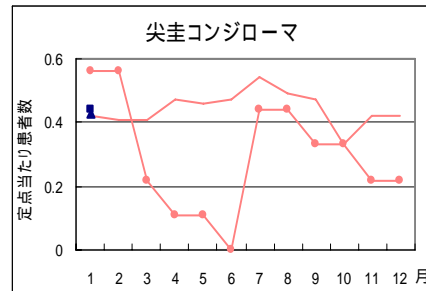
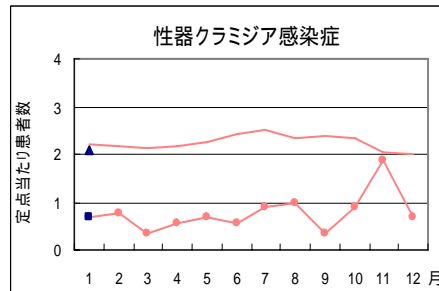
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 22 年 1 月)

疾患名	区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
性器クラミジア感染症	罹患数	6												6
	定点当たり	0.67												0.67
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	3												3
	定点当たり	0.33												0.33
尖圭コンジローマ	罹患数	4												4
	定点当たり	0.44												0.44
淋菌感染症	罹患数	4												4
	定点当たり	0.44												0.44
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患数	48												48
	定点当たり	6.86												6.86
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患数	0												0
	定点当たり	0												0
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0												0
	定点当たり	0												0



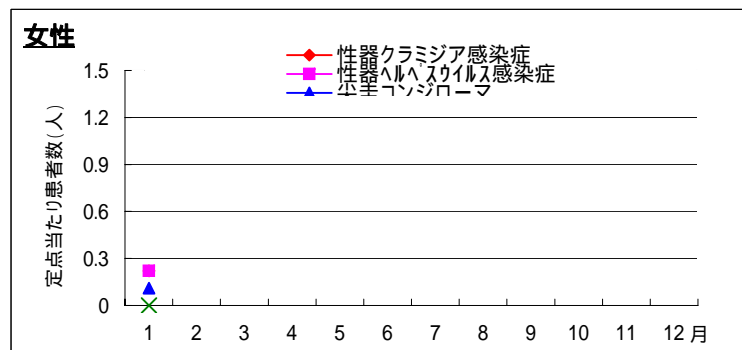
*平成21年1月のデータは、全国、滋賀として表示しています。

H21 { 滋賀
全国
H22 { 滋賀
全国

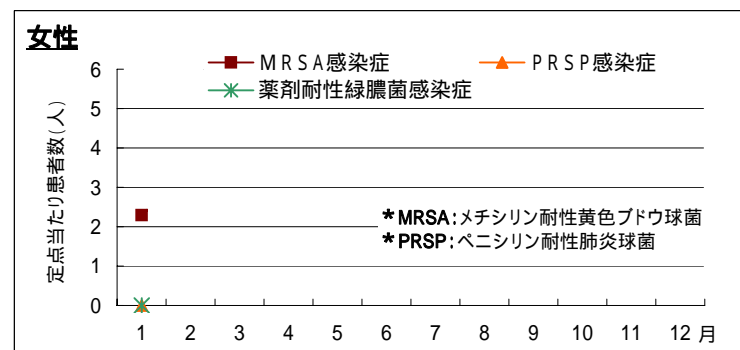
MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を前年同時期と比較すると、性器クラミジア感染症および性器ヘルペスウイルス感染症はほぼ同様で、尖圭コンジローマおよびMRSA感染症はやや減少しています。淋菌感染症はかなり増加しています。また、PRSP感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症は報告されていません。

(H22.1)

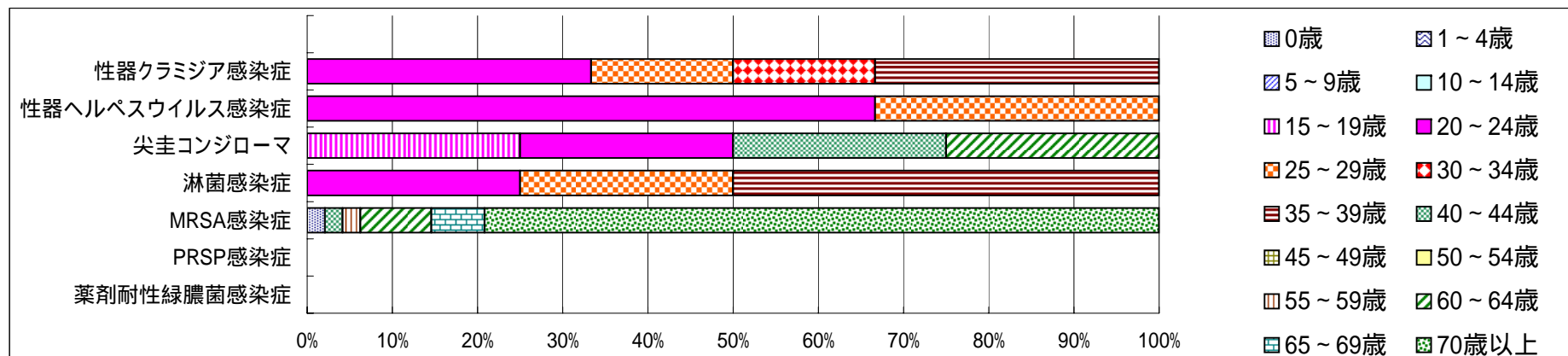


(H22.1)

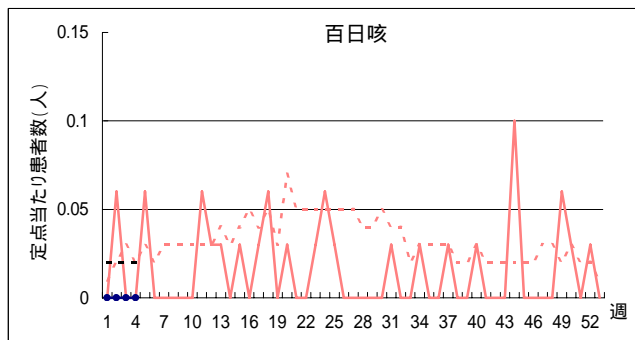
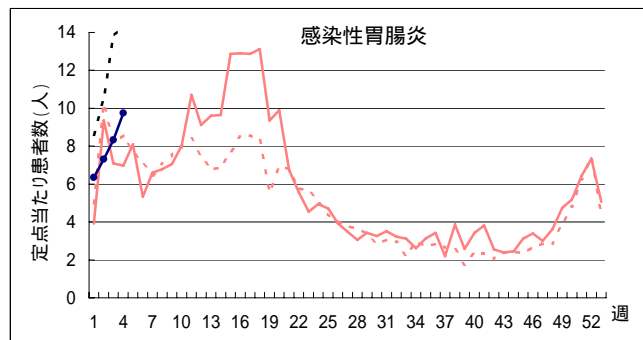
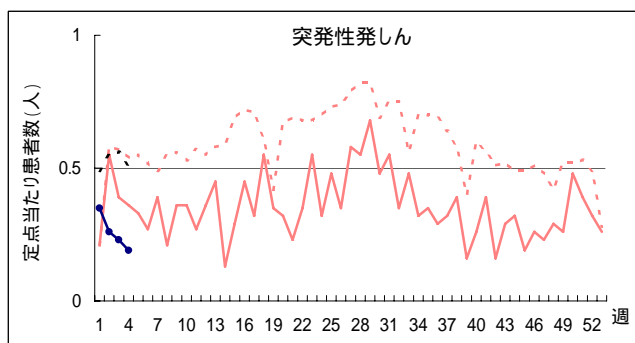
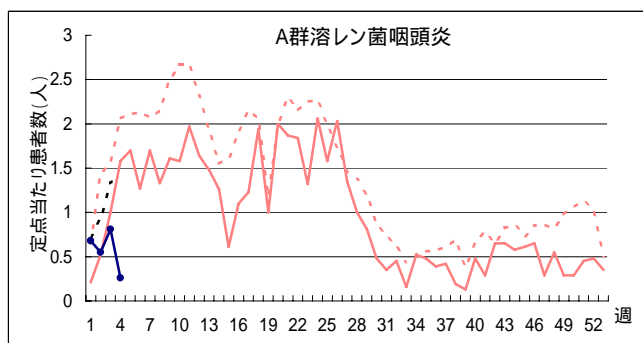
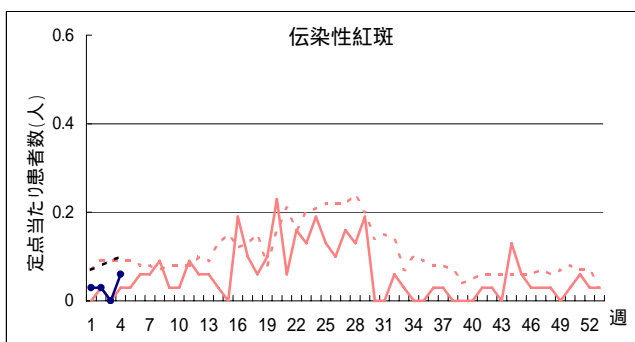
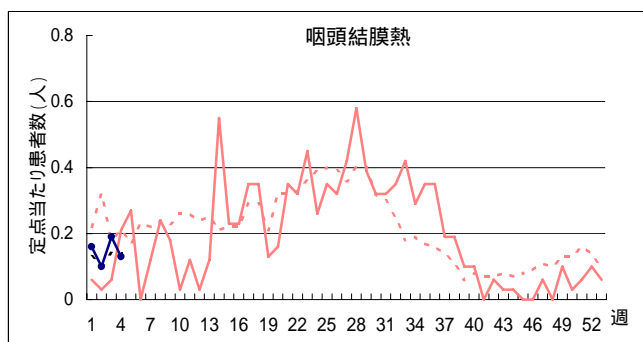
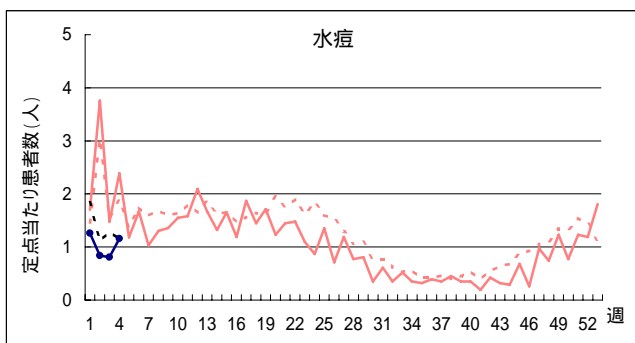
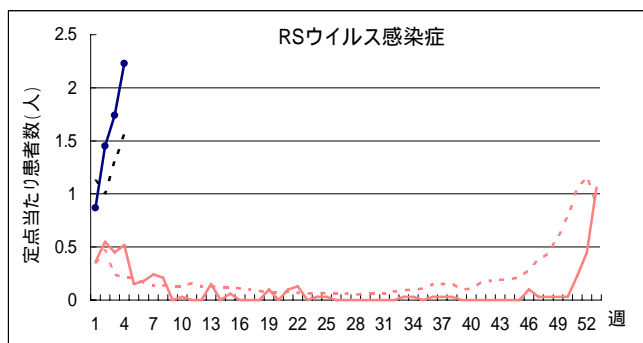
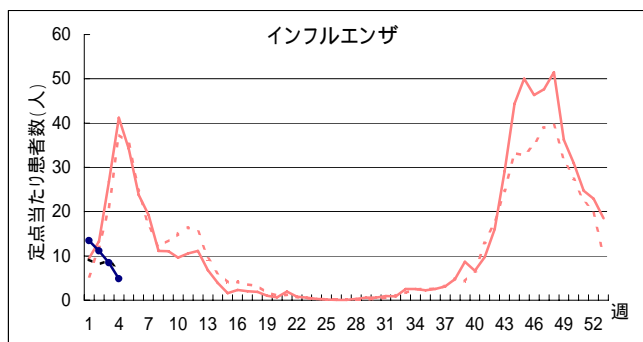


女性の15～19歳では、尖圭コンジローマが報告されています。

疾患別・年齢別発生状況 (H22.1)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ～ 4 週、H22.1.4～H22.1.31)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ~ 4 週、H22.1.4 ~ H22.1.31)

